

## 津南病院地域研修感想文

東京慈恵会医科大学附属病院  
研修医 2年早崎志保

まず初めに、2か月間大変お世話になりました。津南病院の先生方をはじめ、看護師さん、医療事務さん、薬剤師さん、検査技師さん、リハビリスタッフの皆様、他関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。温かく迎えていただき、ありがとうございました。

私はこれまでウィンタースポーツ目的で何度か新潟を訪れたことがありましたが、春の時期に滞在するのは今回が初めてでした。津南町について調べた際には、スキー場や日本酒で聞きなじみのある山々に囲まれていることに驚きました。一方で、普段は都心の病院で研修を行っているため、生活環境も診療環境も大きく変わることへの緊張もありました。そのような気持ちを抱えながら津南での研修が始まりました。

津南病院では、外来、病棟管理、訪問診療を中心に経験させていただきました。

外来に関しては、救急外来の経験はありましたが、一般外来は初めてであり、想像以上に難しさを感じました。救急外来や病棟では、患者さんから離れた場所で相談したり調べたりする時間がありますが、一般外来では患者さんの目の前で話を聞きながら考え、その場で方針を組み立てる必要があります。また、普段病棟で使う薬剤と異なる処方も多く、薬剤選択や用法用量に悩むこともありました。そのような中で、先生方の診察の進め方や患者さんとの距離感、話し方を参考にしながら試行錯誤を重ねました。少しずつですが、患者さんの話を聞きながら次に何をすべきか整理できるようになり、自分なりに成長を感じる場面もありました。患者さんの中には、100歳を超えてもなお力強く生きていらっしゃる方々が何人もいたり、ご家族ではなく近所の方が付き添いで受診される場面もあったり、地域全体で支えあって生活されていることを実感しました。さらに、田植えやきのこ栽培など地域特有の生活背景を持つ方も多く、それらが診断や治療方針に関わることもありました。「生活を知る」ことが医療につながる場面を多く経験できたことは大きな学びでした。

病棟管理では、自分が外来で診察し、そのまま入院となった患者さんを継続して担当させていただく機会もありました。普段は上級医の指示や許可のもとうごくことが多い中で、具体的な治療方針について自分で考える経験をさせていただき、責任の重さと同時に診療の面白さも感じました。また、多職種カンファレンスにも初めて参加させていただきました。終末期の患者さんやご家族への説明、独居高齢者の退院後支援など、疾患だけでなく生活背景や社会的要因まで含めて考えていく必要があると学びました。話がだいぶそれますが、カルテの指示簿の中に、「なんぎい時」という表現を見つけ、地域らしさを感じて思わずふふっと笑ったことも良い思い出です。

訪問診療では、外来以上に患者さんとゆっくり話す時間がありました。診察だけではなく、日常のできごとや昔の話を聞かせていただくことも多く、「待ちわびていたよ」と医師が来る日を楽しみにしている方もいらっしゃいました。身体を診るだけでなく、関係性を築くことそのものに医療としての意味があるのではないかと感じました。

研修期間中は、健骨体操、水中運動、乳幼児健診、デイサービスなどにも参加させていただき、病院のそこから地域を見る機会も多くありました。町民の方々が健康維持のために、温泉を活かしたり、集まって運動する機会を設けたりして、活動的に過ごされている姿は非常に印象的でした。

研修開始時には、雪が残り、景色もまだ茶色い地肌が目立っていましたが、徐々に桜が咲き、気付けば新緑が広がり、つばめが飛び、町全体が春らしい景色へと変化していきました。町中に張り巡らされた用水路や水の流れる音も新鮮で、田植えが始まるころには夜になると蛙の大合唱が聞こえるようになり、季節の移り変わりを肌で感じました。夜は灯りが少なく、道が真っ暗で少し怖さもありましたが、だんだん慣れていきました。花屋で売られているような花々がたくさん植えられて道に彩りがあったり、建物のすぐ裏に山があったり、都心ではなかなか味わえないこの大自然に溶け込んだ生活が、私の中ではとても心地よかったです。

また、津南の水、お米、日本酒、山菜、雪下になじん、アスパラガスなど、地域の食にもたくさん触れることが出来ました。どれも本当においしくて、忘れられない味になりました。さらに、コメディカルの方々や町民の方と食事をご一緒する機会もあり、病院の中では知ることのできない津南の日常を経験できたことも大切な思い出です。多くの方の温かさに支えられ、安心して2か月過ごすことが出来ました。

津南で過ごした日々では、地域ならではのつながりの深さ、人と人との支えあう姿を目の前にしてきました。そして医療だけでなく、寄り添うことの大切さを痛感しました。この経験を糧に、広い視野で患者さんひとりひとりに寄り添えるよう、医師として、人として、成長したいと思います。

改めまして、2か月間本当にありがとうございました！